

# 品川区新型インフルエンザ 発熱センター設置運営訓練

品川区保健所 中村清純  
品川区保健センター 倉橋俊至

## 品川区の新型インフルエンザ対策

- 概要 人口34万 面積22.7平方km
- 交通 JR大井町 私鉄4路線
- 医療機関 昭和大学病院 NTT東関東病院  
東芝病院 等
- 区の新型インフルエンザ対策
  - H17年11月 品川区新イ対策庁内連絡調整会議 開催
  - 12月 講演会及び品川区新イ対策連絡会議 開催
  - H18年 2月 対策連絡会議 医療機関分科会 開催
  - 3月 品川区新イ対策行動計画 策定  
区独自のタミフル備蓄(3000人分)
  - H19年 1月 新イ対策机上訓練及び実地訓練 実施
  - 5月及び12月 発熱センターテント設置運営訓練 実施
  - 11月 発熱センター設置運営訓練 実施
- 地区医師会(品川区・荏原医師会)、歯科医師会、薬剤師会等の地域の医療関係者の積極的協力があった

## 品川区新型インフルエンザ対策 行動計画

- 新型インフルエンザ流行の各段階における **区の方針と実施すべき対策**を示したもの。
- **発生前期(3A・B)**には発生情報の**早期把握と普及啓発**に努め、感染拡大に備えた物資・**体制の整備**を実施する。
- **国内発生期(4B)**には「感染症対策本部」を設置。情報収集提供に努めて感染拡大に備えた**医療体制を確保**するとともに、初期の**抑え込み対策**を実施する。
- **都内流行期:前期(5B)**には「感染症緊急事態対策本部」を設置し、「感染症緊急事態宣言」を行う。流行拡大防止と患者の増加に備えた外来入院**医療の確保**、**発熱センター**を設置してトリアージを実施する。不要不急の外出や催し物の**自粛**を要請
- **都内流行期:後期(6B)**には、都内の**流行抑制**、**社会機能の維持**、**社会不安の解消**を図る。重症患者中心の入院医療、**災害時医療**体制へ移行。発熱センターではトリアージ及び初期診療を実施する。
- **大規模流行期(6B)以後**には、**社会機能破綻の回避と回復**、新たな災害時医療体制の確保、遺体の処置等に対応。



テントを使用した過去の訓練では、屋外であるという感染予防の利点はあっても、「狭い」「寒い」「トイレや手洗い」「雨天・荒天時の運営」「複数個所の継続的運用」等々の多くの問題が判明した。

## 発熱センター設置運営訓練

- これまでの反省点  
防護衣、手袋、フェイスシールド、消毒法等の**基本事項の検証**はできたが、感染予防の観点等において**受診者への配慮不足**
- 訓練の要点  
**建物**を利用した発熱センターの設置運営  
屋内の発熱センターでも感染予防が可能か  
従事者と**受診者**の感染予防  
受診者の間隔を確保、動線を考慮した設置運営  
**多くの受診者への対応**  
集中した受診者への効果的な案内・説明方法



受診者が多数 の場合 **間隔を確保する** **案内や広報**を十分に行う

**発熱センターにお越しになった方へ**

品川区保健センター

新型インフルエンザの発生に伴い、都内においても感染者が認められています。品川区では、感染拡大防止のために、発熱センターを設置いたしました。

- 新型インフルエンザの感染者との接触がある方
- 発熱、息苦しさ などの症状がある方は、当発熱センターで診察をお受けください。

館内では細心の注意を払っていますが、受診者間の感染予防を徹底するため、

- 新型インフルエンザ感染者との接触がない方
- 症状のない方は、受診をお控えくださいますようお願いいたします。

なお、電話相談を行っています。不安な点は下記にご相談ください。

相談受付電話：  
品川区保健センター tel 3474-2903, 2904  
品川区保健所 tel 3788-7016

**来所者用チラシ（両面印刷）**

新型インフルエンザに備わらないために

● 咳やくしゃみをする時は、ティッシュ、ハンカチ、肘の内側などを使って、口元を隠して咳やくしゃみをしてください。

● 帰宅後は、よく手を洗ってください。

● 発熱、咳、息苦しさ、筋肉痛、咽頭痛、頭痛、全身倦怠感、嘔吐、下痢、腹痛などの症状が複数あり、かつ、38.5℃以上の発熱が2日以上続く場合は、早めに「発熱センター」にご相談ください。

● 発熱、咳、息苦しさ、筋肉痛、咽頭痛、頭痛、全身倦怠感、嘔吐、下痢、腹痛などの症状が複数あり、かつ、38.5℃以上の発熱が2日以上続く場合は、早めに「発熱センター」にご相談ください。

咳やくしゃみをする時は、ティッシュ、ハンカチ、肘の内側などを使って、口元を隠して咳やくしゃみをしてください。

帰宅後は、よく手を洗ってください。

発熱、咳、息苦しさ、筋肉痛、咽頭痛、頭痛、全身倦怠感、嘔吐、下痢、腹痛などの症状が複数あり、かつ、38.5℃以上の発熱が2日以上続く場合は、早めに「発熱センター」にご相談ください。

**来訪者への案内、説明はわかりやすく 電話相談等の連絡先も記載**

**発熱センター案内**

- 受付  
「発熱センター」受付係が受付申請書をお渡しし、受付を済ませた後に待合室にお入りください。
- 待合  
● 受付係での検温を受け取り検温票をお渡しください。  
● 「発熱センター」受付係が検温票をお渡しし、記入をお願いします。
- 診察  
受付係が診察室へお連れさせていただきます。
- 診察  
「発熱センター」受付係が検温票をお渡しし、記入をお願いします。

- ナイロはご断じます。
- 受付では、ご記入いただいた申請書をお渡しさせていただきます。
- 受付係が検温票をお渡しする際に、ご記入いただいた申請書をお渡しさせていただきます。受付係が検温票をお渡しする際に、ご記入いただいた申請書をお渡しさせていただきます。
- 検温の際には、検温票をお渡しさせていただきます。検温の際には、検温票をお渡しさせていただきます。

**発熱センターの案内は要所にわかりやすく 受付申込書は待合室で記入するように案内**



入り口では 直ちに 全員に マスク  
装着、手指消毒、ゴミ袋配布 等を行う  
受付で滞ることなく、すぐに広い待合室  
等に誘導する



待合室は十分に換気を行い、受診者相互の間隔を十分に確保する



受診者の動線はシートや大きな案内表示でわかりやすく表示する  
トイレもできるだけ自動水栓式、扉は自動あるいは開放して感染予防に努める



診察は従事者のみならず受診者の感染予防にも十分留意する  
使用器具等は一人ひとり消毒するかまたは Disposable とする



十分な換気<sup>①</sup>を確保する 必要に応じて陰圧式空気清浄機<sup>②</sup>等を使用する



診察にはチェック式の診療録用紙<sup>①</sup>等を用いて、記載を最小限とするとともに診察問診項目の漏れを防ぐ



## 発熱センター設置運営訓練のまとめ

- 発熱センターが感染を広げる場となることがないように、建物内に発熱センターを設置運営する場合の留意点について実地に検証した
- 従事者だけでなく、受診者相互の感染予防について充分配慮した発熱センター運営が必要である
- 感染予防の要点  
受診者の間隔を確保し、直接接触を極力避ける  
受診者の流れ(動線)が滞らないように配慮する  
受診案内や広報を充分に  
事前の準備検討と実地訓練